

川越城に流れた、五百五十年の時間とき



嘉永元年（1848）に建設された川越城本丸御殿。
550年の歴史を持つ川越城の、本丸に造営された最後の建物です

長禄元年（一四五七）、扇谷上杉持朝の命により、家臣の太田道真・道灌親子が築いた河越城。江戸時代には、城の拡張や城下町の整備が行われ、川越藩の政治・経済の中心として発展しました。築城から江戸時代まで三十人余りの城主を迎えた川越城も、明治維新後は建物の解体・撤去や払い下げが行われましたが、今でも本丸御殿の玄関など一部が残っています。川越城築城五百五十年を迎えたことし。この企画記事では築城当時の様子を中心に、川越城に流れた時間を追ってみました。

*この記事では、中世は「河越」を使用し、それ以外の場合は「川越」を使用しています。
問い合わせ：広報室広報担当・TEL内線3522

築城の背景

室町時代初期、幕府は鎌倉に関東を治める鎌倉府を置きました。その長官にあたる鎌倉公方は、将軍家の一族である足利氏が務めていました。しかし、しだいに幕府と相反した動きが顕著になり、幕府との関係が悪化してしまいました。永享十年（一四三八）、第六代将軍の足利義教は、鎌倉公方足利持氏の討伐を、鎌倉府の次官に当たる関東管領の山内上杉憲実（のりざね）に命じます。関東管領を補佐していた扇谷上杉持朝も憲実を支援した結果、持氏の自害という形で収束しました。

新たに鎌倉公方になった足利成氏は、宝徳元年（一四四九）に鎌倉に入りました。成氏は、幕府から独立した東国支配を確立するため、関東東北部の勢力を味方になります。さらに享徳三年（一四五四）、関東管領である上杉憲忠（憲実の子）を殺してしまいました。この事件により、幕府は上杉氏に成氏討伐を命じます。これに対し成氏は、康正元年（一四五五）に下総国古河（現在の古河市）に本拠地を移し、古河公方を称することになります。これによって、上杉氏と古河公方の対立が鮮明になりました。

築城から現在まで

室町

長禄元年（一四五七）

・河越城築城

文明二年（一四七〇）

・河越城で連歌会を催す

同十八年（一四八六）

・太田道灌殺される

天文六年（一五三七）

・北条為昌が城主になる

同十五年（一五四六）

・河越合戦（河越夜戦）で扇谷上杉氏が滅亡

天正十八年（一五九〇）

・豊臣秀吉の軍が、小田原城・川越城を攻め落とす

・酒井重忠が城主になる

慶長五年（一六〇〇）

・関ヶ原の合戦

同八年（一六〇三）

・徳川家康が江戸幕府開府

江戸

安土・桃山

河越城築城当時の関東地方略図



本拠地である河越城を守るように、2つの城と1つの陣が、古河城に対して扇状に展開しているのがわかります

なぜ、河越に？

当時の利根川は、荒川と合流して現在の隅田川を通り、東京湾に注いでいました。この利根川と荒川を中心として東側が古河公方の勢力圏、西側が上杉氏の勢力圏となりました。上杉氏は、古河に根拠地を置く古河公方に対抗するため、長禄元年（一四五七）扇谷上杉家の当主持朝の住居があった河越と、江戸に城を築きます。これによって、河越城を本拠地とし、五十子の陣（現在の本庄市）・岩槻城・江戸城を前線基地とした防御態勢が整いました。

道灌の死 上杉家と11歳の年齢差の因縁

文武に秀でた武将として名高い太田道灌は、文明18年（1486）7月、糟屋の館（現在の伊勢原市）で、主君扇谷上杉定正によって殺されました。なぜ、道灌は主君に殺されたのでしょうか。



市立博物館にある木造太田道灌像（複製品）

当時の関東管領山内上杉家は跡継ぎがなく、越後上杉家の顕定が継いでいました。文明8年（1476）、顕定の家臣の長尾景春が反乱を起こします。この時、反乱を鎮めたのが道灌でした。これにより大きな権力を得た道灌は、他の家臣の不満を買うようになります。さらに、江戸・河越両城を堅固にしたことを顕定に対する謀反と受け取られ、それを注意した定正にも反抗します。これらが原因となり、定正と道灌の間に深い溝が生まれたようです。

扇谷上杉家に跡継ぎがないため当主になった定正は、景春と同じ年齢で、顕定は景春の11歳年下、道灌は定正の11歳年上でした。両上杉家では主君と重臣が、11歳の年齢差で対立していたのです。そして道灌の死後関東に進出し、河越合戦で扇谷上杉氏を滅亡させる後北条氏の祖・北条早雲は、道灌と同じ年齢。これは、単なる偶然の一致なのでしょうか。

を西から東に向かって赤間川が流れていました。また、北から東にかけては高低差十五メートルほどの低地に田畑が広がり、南は泥湿地で、正に

自然の要害でした。地形的に河越城を築いた場所は、築城に適した場所だったのです。

持朝が没した応仁元年（一四六七）に、「応仁の乱」が始まりました。京の混乱はやがて全国に広がり、大名どうしが勢力を争う時代になりました。

大正 昭和八年（一九三三）
本丸御殿が初雁武徳殿に名称変更
同二十年（一九四五）
終戦
同四十二年（一九六七）
本丸御殿が県指定有形文化財に指定される
同六十二年（一九八七）
家老詰所を移築復元する
平成三年（一九九一）
家老詰所が県指定有形文化財に追加指定される
同十九年（二〇〇七）
川越城築城五百五十年

築城当時の様子は史料が不足しているため、よくわかっていません。築城者については、太田道真とする記録類もあり、その後の多くは江戸時代に作成され、誤記や誇張もあります。また、長禄元年前後は、道真・道灌は常に行動を共にしていました。そのため河越城は、道真・道灌が協力して築城したと考えられています。

これ以降、河越は後北条氏の実質的な領地となり、河越城は小田原城の支城として新たな時代を迎えます。

平成 同十九年（二〇〇七）
川越城築城五百五十年